令和４年度　第４回社会教育委員会議　会議録

開催日時	令和４年１２月８日　木曜日　１３時３０分から１６時まで
開催場所	二宮町役場第一会議室
出 席 者	森英夫教育長、蓮實茂夫委員長、久保田秀美副委員長、 関口金由紀委員、橋本由恵委員、稲葉通隆委員、三宅栄子委員、 中西美保委員
欠 席 者	山内みどり委員
事 務 局	椎野教育部長、竹本課長代理、加藤生涯学習班長、二見主任主事
そ の 他	傍聴者なし

会議記録　（司会：竹本課長代理）

１．開　会

２．あいさつ

３．議　題

（１）生涯学習推進計画について

（委　員）

23 ページ、人口構造の変化について、数字で示されているが、グラフにしたほうが見やすいと思う。

（委　員）

27 ページ、基本施策がひまわりの花のイメージという説明だが、町の花を使った方が良いと思う。また、土台の土のところから芽がでての流れと上の文章の流れが逆転していると思う。例えば、学ぶ人づくりのところに（基礎作り）、絵に合わせた言葉を入れる、ということをするとより一層分かりやすい。

（委　員）

ラディアンが創設された時期に、講座を作って人を呼ぶ、人を呼んで人を育てるということを掲げていた。そこで学んだ人たちが、町民大学の講師になったり講座を実施して人を育ててきている。今の時代、人を育てるのはもちろん、社会教育を進めていくうえで、最終的には人を育てるというところに行きつくが、現場に携わっている方々は、学びを求めている人、場所を求めている人を

コーディネートしていくという役割になっていると感じる。なにか作るというよりもコーディネートしていくという受け止めである。

（事務局）
委員の言う通り、かつて町民大学で学んだみなさん、一例をあげると、オカリナを学んだ皆さんがご自身たちでサークルを作りラディアンや町民センターで練習している。この 20 年で、多くの町民が熱意をもって自身で取組をしており、そこのバックアップ、支援、コーディネートに力を入れていくところであると思う。

（委　員）
イメージのところで「学んだ成果を活かしていく」とあるが、循環していくということのほうが大事だと思う。事務局のイメージだと直線的なイメージになっている。あえて花や木にしなくても、学んでいる人たちで教えている場が広がっていく、サークルで示された方がこのイメージを活かすには分かりやすい。成果というと、花は散るので、実のほうがいいのでは。次につながるという発想を入れるのが良いと思う。

（委　員）
自分がやったことが何かに活かされていく。そして影響を受けた人がまた次に活かしていくという意味では循環だと思う。学びとはそうやってつながっていくものだと思う。

（事務局）
最初循環するような絵柄だったが、活かしたものがまた学ぶ、土壌作りに戻るのかな、というのが内部で話していてしっくりこなかったので、このような表現となった。土壌ができて、育てて開花する、土壌が他のところに波及するといことの表現がうまくいかなかった。

（事務局）
参考にさせていただく。

（委　員）
誤解を招くかもしれないが、高齢者層の存在感が目立つ印象になりがち。人口的に多いのはもちろんだが、その結果をもとに何か施策をとるだけでなく、これからの未来を作っていく世代にも目を向けていかなければならないのでは

ないかと思う。

（委　員）
以前、生涯学習や町民活動は高齢化して、課題も多いということだった。社会教育委員会議ではコミュニティスクールを核とした地域作りと学びが大事ということでワーキングを行っており、コミュニティスクールも試行錯誤しながらいろいろ発展してきている。もちろんコミュニティスクールのことは出ているが、二宮町が核としていろいろな学びが広がっているという現状も加味されるとよい。一色小学校はいろいろな活動と共に学び、子どもの学びにも、地域の学びにもつながっているので、そういうところがもう少し盛り込まれても良いと思う。自発的な町民のグループがあり、やりたいと思ったら、そこからどんどん枠にとらわれずに始めていて、狭い町内でつながり始めているので、自発的なグループを行政として応援できるか、どういう支援をしていったらうまくつながり、活性化するのか。自発性を活かしたつながりが、学びにもつながると思う。

（委　員）
25 ページの８番、地域に生きる生涯活動の支援のところに学校関連のことがまったく入っていない。学校を中心とした地域活動が行われているので、ここに入るのが良いと思う。

（委　員）
28 ページの②番で、「コミュニティスクールの枠組みを活用し」となっているが、「コミュニティスクールとなっていることを活かして」等の表現の方が良いかと思う。

（委　員）
スポーツのアンケート結果を見たい。

（事務局）
ラディアンとスポーツで分けたものは別途用意する。

（委員長）
だいたい皆さんの意見や感想が出たと思うので、第３章の基本方針について決めたいと思う。

（委　員）
この中から選ぶということか。

（委員長）
事務局から示された案であり、この中から選ばなければいけないわけではない。私たちで作ることもできる。

（委　員）
現行の計画では人づくりから町づくりとあるが、この目標を掲げた後の振り返りみたいなのはあったのか。この目標がどれくらい到達できたのか。

（事務局）
振り返りはない。総合計画の改定のタイミングで新たに再スタートというイメージである。

（委　員）
前回の計画目標の「一人一人の個性を認め合う」は今こそ必要な気がする。

（委　員）
生涯学習における人と人とのつながりとなると、広がりすぎてあまり結びつかないのではないか。

（委　員）
誰一人取り残さないという文言は、町や地域にとってどうなのか。学校現場ではよく使われている言葉だが、違和感がある。

（委　員）
誰一人取り残されない、学校教育と生涯学習、地域学習は違う。生涯学習にはこの言葉はそぐわないのかもしれない。

（委　員）
誰一人取り残さないというのは、二宮中学校の学校研究のテーマである。

（委　員）
三番目の、学びあいの次にくるのは、認め合いだと思う。学びあって、お互いに認め合う。基本目標があって、基本施策がある。つながるという言葉がある。

その流れがうまく施策につながるようなテーマを考えなくてはいけない。

（委員長）
共生社会など、これからの社会を踏まえたキーワードがあって欲しいなあという気がする。夏に第６期町の総合計画の資料をいただき、そこに町づくりの方向性の中で、子育て・教育の分野で子どもたちの健やかな成長と生きる力を育む町、福祉・健康の分野で誰もが生き生きと豊かに暮らせる町という目標が出ている。その辺りとのリンクはどうなのか。10 年先ということなので、それを念頭に置きながら基本目標ができれば良い。人生 100 年、マルチステージといったこともキーワードにして、基本目標ができれば良い。

（委　員）
現在いろいろな活動をしているので、つながるという言葉に魅力を感じている。町民一人一人のことを考えると、多様性を認め合うということが大切な時代になっている。一人一人が多様であっても、輝くことが目標としては大事なのかな。個性が輝く、多様性といった言葉があると良い。

（委員長）
さまざまな意見をもらったので、あとは事務局にお任せしたいと思う。

（委　員）
多様な学びがつながり合う町づくり。一人一人の個性が活かされて、その人がその人らしく生きていくことが町の土台をつくり、支える力につながっていくことが町づくりの根本であると思う。

（事務局）
「多様」は今の時代に使われるキーワードである。

（委　員）
そうするとその人が活かされるというイメージ、こちらが与えるものではなくて、自身たちが輝くというイメージがある。

（委　員）
多様性を認め合うというが、多様性は認めるのか、活かすのか、発信する側なのか、受け取る側なのか、立場によって違う。
一人一人が個性輝きだと、自分から発信する、多様性を認めるより活かす方向

に持って行った方が良い。つながるというキーワードは、子ども達、人と人とだったり、地域だったり、町全体がつながっていく、つながるというキーワードも大事にしてほしい。町づくりということで進めていい。

（事務局）
生涯学習、スポーツを通じて、地域づくり、町づくりにつながれば、大きく発展性が見込まれるということで、町づくりを着地点ということでとらえた。そこまで大きくということであれば、町づくりは一旦削除したほうが良いか。

（委　員）
違和感がなければ別にあっても構わないと思う。社会教育として地域作りが町づくりにつながるので。

（委　員）
人づくりというよりは、町づくりという方に私は１票です。その方がその人の主体性と当事者意識が、人づくりは、作られなくてもいいのではないか。

（事務局）
間に地域作り、町づくりとあった方がイメージがつきやすいのではないか。

（委　員）
地域作りも、そもそも境界線を引いて地域に分ける必要があるのか。

（事務局）
必要はない。

（委　員）
そこはもう、町ということで良いのではないか。イメージが固まりつつあるような感じがする。

（委　員）
町づくりの方向性としても、元気のある町づくり、という方向なのか。

（事務局）
そのような方向でつながれば、多様性、町づくりといったワードを入れる。

（委　員）
目標というのは、主体は生涯学習を行う私たちが、多様な学びでつながることによって、その人たちが結果として町づくりに貢献していく、というイメージなのか。行政側、いま計画を作っている人たちにとって、多様な学びや、つながり合いが生まれるような町づくりをしていくということなのか。

（委　員）
話しの中で、自分たちも学びあって、自分も町づくりをしていく一人だと思える町づくりなら良い。

（委　員）
人がつながれば、町が構成されていくので、単純につながっていくのであれば多様性を活かし、人と人とがつながる町づくり、そんな順番でいくのか。個性を発揮して、個性と個性が融合して、つながって、それが町づくりになるイメージなのか。個性輝きでも良いし、みんなが輝いてつながって、という形もよい。いきなり多様性を活かし、人と人がつながる町づくりというと難しい。

（委　員）
学びという言葉が欲しい。学び合い。

（委員長）
基本計画ですから、町がどう推進するかということで、それによって町民がどういうふうに育っていくか、それを町がやっていくというものである。

（教育長）
多様性という言葉にひっかかりがあり、多様性という言葉を言い換えて、みんなでつくる、みんなの力で、など言い換える言葉が何かないか。

（委　員）
「多様な」という形容詞にしてしまうのが良いと思う。

（委　員）
多様性というと多様な人を育てましょうといった上から目線な感じがするので、その言葉にこだわるわけではないが、「みんなで認め合う」とか「尊重する」などが良い。

（委員長）
さまざまな意見がでたので、事務局は持ち帰っていただき、内容を再度検討願います。

（２）社会教育委員研究による地域学校協働活動に関するアンケートについて

（委員長）
教職員向けのアンケートがやっと実施されることになった。内容についてご意見を伺いたい。

（委　員）
序文の文章、地域学校協働活動が組織的かつ継続的とのことだが、組織的とはどういう意味か。

（事務局）
地域学校協働活動については、地域学校協働活動本部と呼ばれる組織がある。二宮町はそこまで到達してはいないが、個人ということではなく、組織的という言葉を使わせてもらった。

（委　員）
実際活動していると、確かにチームで動けたら最高だが、個人もあればチームもある、縦もあれば横もあるので、組織的というとちょっと画一的な感じになりはしないか。学校と地域の組織という、枠に入ってしまうイメージがある。

（事務局）
組織的は削除する。

（委　員）
アンケートは匿名になっているが、学校によっては、年代を書くと誰だか分かってしまう。年代はいらないのではないか。

（委員長）
年代はなくてもいいのでは、という意見もあったが、二宮の学校としてどのような考えがあるのか知りたいこともあり、入れることにした。

（事務局）

年代を設けたのは、実情として管理職が考えていることと、教職員になったばかりの人が考えていること、とりまとめの中堅職員が考えていることにギャップや相違があるのではないか、というイメージがあるため。それぞれの年代で求めていることが分かれば、次のステップに活かせるのではないかと考えた。はじめは、小学校、中学校の区分のみでも良いと考えたが、学校ごとの特色を知りたい、という思いもあり学校名を選択肢にいれた。はじめは、20 代、30 代、40 代と細かく分けようかとも考えたが、採用がなかった年が続いて、手薄になる年代があるので、そこは幅を広めにとった。そのため、最終的にこのような形となった。

（委　員）
学校ごとに分かれていると、一番最後の設問で、二宮小はこうなんだ、というのが見えていいと思うが、大きく小学校、中学校で分けてしまうのも良いと思う。

（委員長）
はじめはそういう形だったが、校長会で相談した所、校長先生方もその結果を見たい、という思いがあった。

（事務局）
校長会では 30 代 40 代を合算するということで落ち着いた。

（委員長）
コミュニティスクールや地域学校協働活動というのがどれくらい先生方に浸透しているのかというのを知るのがこのアンケートの位置づけである。コミュニティスクールを知らない、地域学校協働活動とは何かといった先生もいる。仕組みができて進められているけれども、なかなか浸透していないのかなと感じたところがあるので、アンケートを実施したいと思った。

（委　員）
継続的な取組をもっと活動につなげていくために、先生方の今考えていることを知りたい。

（委　員）
集計した結果は学校に返されるのか。

（事務局）
協力していただくからには校長先生方には、学校と全体の結果をフィードバックしていく。

（委員長）
どういった形でアンケートは行われるのか。

（事務局）
学校長に依頼文書を出し、そのうえで、学校の外から入れないインターネットがあるので、その中で回答していただく。

（委　員）
コミュニティスクールは学校のニーズに応えるということが一番大事なことだと思うので、経験年数によってニーズが変わるのかなと思う。今、コーディネーターが丁寧に入ってくれているので、経験年数が少ない方は、学習支援や教室に入れない子の支援を求めているのか、中堅の先生たちは何を求めているのかなどある程度の年代別のニーズが分かれば、コーディネーターもそれに合わせた動き方が考えられると思うと、年代はあってもいいと思う。

（事務局）
コミュニティスクールは一色小学校が早くスタートしているので、それ以外の小中学校がどうなっているのかを聞きたい。

（委員長）
大筋はできており、時間をかけて良いものができましたので、校長先生のご協力を得ながら、よろしくお願いします。

（３）その他
①神奈川県社会教育委員連絡協議会研修会報告
②令和 5 年 20 歳のつどいの開催について
③蘇峰堂の庭園指定文化財解除について
④東海道一里塚の説明板の改修について

４．閉　会